

第4回 オクラホマとスポケーン

アメリカでも随分いろいろなところに行きました
が、今回はアメリカの本質に触れたように感じたところ
を2つご紹介します。

タルサのオクトーバーフェスト

1987年に仕事でオクラホマ州のタルサに行きま
した。それは10月で、街はオクトーバーフェストとい
うお祭りの最中でした。オクトーバーフェストはミュ
ンヘンだけのものと思っていきましたが、タルサにもある
というので行ってみました。

街外れの広場には移動遊園地が設置されていて大変
な賑わいでした。大テントの中はビヤホールになって
いて、生バンドにあわせてジョッキを空けていました。
屋台で「ポテト・パンケーキ」というジャガイモを擦
りおろしてホットケーキ状にしたものを売っていたの
で、それを注文したところ、屋台のオバチャンがこれ
は「カルトツフェルブツファ（ドイツ語で「ジャガイモ
菓子」）と言っています」と言っているので、驚きました。前
に、マンハイムのクリスマス市でこれを売っていて、それを
買ったために一生懸命名前を覚えしました。まさかタルサ
でこの言葉を聞くとは思いませんでした。

ビヤホールの雰囲気から、オバチャンの服装までま
さにドイツでした。

後で調べると、オクトーバーフェストは10か国以
上で行われていて、アメリカだけでも大小合わせて
100以上あるそうです。ドイツ人の移民が中心に
なつて故郷を偲んで毎年開いているのでしょう。アメ
リカ人のうち、民族的に一番多いのはイギリス系や
アイルランド系ではなく、ドイツ系だということも知り
ました。

タルサにもドイツ系の人が多く住んでいるのだと

思います。アメリカは移民で成り立っている国だとい
うことを改めて感じました。

オクラホマのコンピュータ工場

オクラホマ州のノーマンというところに私の勤務先
の工場があったので立ち寄りしました。ほとんど何もな
い大平原の中にぽつんと立っている日の丸の旗を目印
にして目指す工場にたどり着きました。敷地の片隅
に今は使われなくなった採油のポンプがまだ残ってい
て、この辺がかつて石油の産地だったことを示していま
した。

ノーマンはオクラホマ・シティーの近郊の都市です
が、オクラホマ大学のほかたいしたものはないとい
うことで、その工場の人は「ロデオ殿堂に案内してくれま
した。そこには歴代のロデオのチャンピオンが使った
きらびやかな鞍が部屋中に陳列してあって、アメリカ
ではロデオのチャンピオンが野球やフットボールのス
ター選手同様英雄扱いされていることを知りました。



1927年のロデオのチャンピオン
(出典：Wikipedia (英語版) - "Rodeo Hall of Fame")

ここには西部
開拓に貢献した
人々の説明や西
部を題材にした
美術品も展示さ
れています。
オクラホマは地
理的には東海岸
と西海岸のほぼ
中間ですが、文
化的には西部の
文化の中心地と
して扱われてい

ることが分りました。

後日、日本でミネソタ州のローズヴィルの市長さん
と会食する機会がありました。我々のコンピュータ工
場がノーマンにあると話すと、その市長さんは大変驚
いて、「なぜノーマンを選んだのですか？」と聞きます。
あいまいな返事をしておくと、食事の後でまた同じ質
問を繰り返されました。

ローズヴィルはミネソタ州の中心のミネアポリス
セントポールのツイン・シティーに隣接する都市で、
この地域は1960年代から70年代にかけてはアメ
リカのコンピュータ産業の二つの中心地でした。しかし、
1980年代以降、シリコンバレーなど西海岸が主力
になり、この地域のコンピュータ産業はすっかり下火に
なつてしまいました。そのため、市長さんは「コンピユ
ー産業などの誘致に力を入れているということでは
ないか」とこの地域のメリットを強調してしま
した。そこで、市長さんは「ノーマンがコンピュータ産業の
誘致に成功した理由は是非知りたいと思ったのでしょ
う。再度の質問に、「社長の個人的な人間関係のため
です」と答えて、やっと納得してもらいました。

オクラホマ州が合衆国の46番目の州になったのは
1907年で、テキサス州やカリフォルニア州より50年
以上後です。20世紀の初頭に石油が発見されてから急
速に人口が増えましたが、石油の産出が終わるとも
にブームは去りました。

ノーマンと聞いて市長さんがあまりに驚くので、
こつちも驚きましたが、アメリカ人には成金が閉山に
なつて斜陽化した街にコンピュータ工場を建てたとい
うような印象を与えているのかもしれない。

スポケーンの博物館

スポケーンというのはワシントン州の東端に近い街



酒井ITビジネス研究所
代表 酒井 寿紀

E-mail: webmaster@toskyworld.com
ウェブサイト「Tosky World」
http://www.toskyworld.com/

〈著者略歴〉
1940年生まれ。
1964年 東京大学工学部卒業。
1964年から2002年まで日立製
作所グループでコンピュータの開
発などIT関係の業務に従事。
2002年 酒井ITビジネス研究所
(個人事業)を開業。IT関係の記事
を執筆、オーム社の雑誌およびウ
ェブサイト「Tosky World」に掲載。
[趣味] 淡彩スケッチ、エッセイ
執筆、旅行。

です。1998年ここを訪れました。この街は「ロ
ンピア川の支流のスポケーン川の河岸にできた街で、
街の真ん中にスポケーン滝という滝があります。

スポケーンの歴史を展示してある博物館があるとい
うので行ってみました。先史時代からの原住民の生活
が展示されていました。このあたりにはスポケーン族
という原住民が住んでいて狩猟生活を営んでいたとい
うことです。順路に従って次の部屋に入るとミシシヤ
初期の電気製品が並んでいるので面食らいました。し
かし、スポケーンで生活していた人の品物を時代順に
並べればこうなるわけです。これはどこの植民地でも
同じはずだと納得しました。

博物館にはスポケーン族の酋長の下記のような談話
が掲げられていました。「白人が我々に銃を売りつけ、
我々はそれで狩猟するようになった。若者は銃に慣れ、
弓矢を使えなくなつてしまった。ところが白人はある
日、銃の弾を売るのをやめた。我々はもはや昔のよう
に弓矢で白人と戦うことができず、我々は敗れた。白
人は汚い」

この談話を掲示した人も多分白人だと思えます。自
分たちがしてきたことを正しく後世に伝えようとする
姿勢には感銘を受けました。



スポケーン滝のスケッチ

「連載」はWebサイトでもご覧いただけます。http://www.m-system.co.jp/mstoday/plan/serial/index.html